

令和5年度筑前町総合教育会議議事録

- 1 開催日時 令和5年10月26日(木) 15時～16時30分
- 2 開催場所 筑前町役場本庁舎2階 庁議室
- 3 出席者(出席6名、欠席0名)
 - ・ 町長 田頭喜久己
 - ・ 教育長 宮崎敏宏
 - ・ 教育長職務代理者 岡松明子
 - ・ 教育委員 岡部新吾
 - ・ 教育委員 浦山敏弘
 - ・ 教育委員 東野正美
- 4 参加者
 - ・ 教育課長 宮崎宣匡
 - ・ 生涯学習課長 吉浦高幸
 - ・ 指導主事 櫻井憲一郎
 - ・ 指導主事 小川由有
 - ・ 総務課長 古川秀志
 - ・ 総務課 久野泰伸
- 5 会議に付した事件
 - ・ 不登校対策について
 - ・ 学力向上施策について
 - ・ その他
- 6 会議の経過
別紙のとおり
- 7 傍聴人
0名
- 8 議事録署名人の選任に関する事項
岡松明子氏、岡部新吾氏を選任することを諮り、全員異議なくこれを承認した。

この議事録が正確であることを証します。

令和6年2月7日

議事録署名人 岡松明子

議事録署名人 岡部新吾

| | |
|------------|---|
| 久野 | <p>定刻前ですが皆さんお揃いですので、ただいまから筑前町総合教育会議を開会いたします。まず資料の確認ですが、本日の次第が1枚、皆様の名簿が1枚、本会議の設置要綱が1枚、それから総合対策関係資料が2種類、学力向上施策関係資料が3種類ございます。</p> <p>では、次第に沿って進めさせていただきます。2番の町長挨拶で田頭町長お願いいたします。</p> |
| 田頭町長 | <p>皆さんこんにちは。大変お疲れ様です。ご出席ありがとうございます。この会議は法に基づく会議のため、会議録を公開させていただくと同時に、その分だけ効力を有しているということでもあります。</p> <p>私も振り返ると、この会議で発案なり事業の契機になったものが、例えば子ども議会であったり、アフタースクールであったり、あるいは英語教育の充実も、こういった議論の中から施策の展開に至ったと記憶しております。ぜひこの会議が有意義なものになるように、私も町の代表として出席していますので、必要なものについては予算措置等を講じていきたいと考えています。よろしくをお願いします。</p> |
| 久野 | <p>ありがとうございます。それでは次第の3番の議事録署名人の選任についてです。お手元にあるように、第7条に基づいて今回の会議録は公開をさせていただきます。会議録の署名人を教育委員の岡松様、同じく岡部様にお願いしたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。</p> <p>(全員承認)</p> <p>ありがとうございます。それでは4番の議題にうつります。ここからは田頭町長に司会をお願いいたします。</p> |
| 田頭町長 | <p>それでは私の方で進行を務めさせていただきます、ご協力よろしくお願いいたします。</p> <p>本日の議題として、まずは不登校問題。これは学校だけの問題ではなくて、広く社会問題でもあろうかといった認識に私も立っています。何らかの改善策を見いだしていきたい。どうぞ忌憚のないご意見を聞かせていただき、不登校問題の解決が前進するよう、真剣な議論をしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。それではまず、議論の材料として不登校の実態を説明願います。</p> |
| 小川 指導主事 | <p>では、資料の筑前町小中学校におけるいじめ・不登校の状況と早期発見・早期解決の取組のグラフ資料をご覧ください。</p> <p>2番の不登校の状況と未然防止・早期対応ということで、①・②のグラフをご覧ください。筑前町の状況は、令和2年度から4年度まで小学校、中学校ともに増加傾向にあることがグラフを見てもわかると思います。</p> <p>また②番の学年別の状況を見ましても、小学校1年生から中学校3年生に</p> |

| | |
|------------|--|
| | <p>至るまで増加傾向にあることもわかつて思います。このような状況をみて、教育委員会でも学校だけでは対応ができなくなっていることもあり、④番心のケアのための人的支援としてスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、それから心の相談員に繋いで一緒に先生と支援員、そして保護者で支援を行っています。</p> <p>また、学校に来づらくなっている子どもたちに対しても、教育支援センターにソーシャルワーカーから繋いでもらい、支援センターに通うという子もいま十数名ほどいます。この中で、町の機関や学校の先生どこにもなかなか繋がらない家庭に対して行っている支援が、アウトリーチ支援というものです。これは、昨年度から県の事業を受けまして、2枚目の資料にありますアウトリーチ専門のスクールソーシャルワーカーを1名配置し、このソーシャルワーカーを中心に、どこにも繋がっていない児童それから家庭にアプローチをして繋げていく支援をしていくという取り組みを行っています。</p> <p>昨年度の実績としては、対象者を11名にピックアップし、特に中学校3年生、卒業間近で進路選択をしなければならない生徒を中心にアプローチしていただきました。中3生については4人アプローチしていただき、そのうち定時制1名、通信制3名と全員が進学することができています。令和5年度に関しても、同じようにピックアップをして今支援を行っているという状況にあります。</p> |
| 田頭町長 | <p>今、説明がありましたが、それぞれ質問があれば。私の方からいいでしょうか。このアウトリーチ体制というのは全県下の市町村が取り組んでいるのでしょうか。</p> |
| 小川 指導主事 | <p>全県下というところまではまだ。本年度、県の事業を受けている市町村は6～7あります。</p> |
| 田頭町長 | <p>これは取り組まれて何年目でしょうか。</p> |
| 小川 指導主事 | <p>昨年9月からからスタートしています。</p> |
| 田頭町長 | <p>昨年9月から丸一年、感触としては手応えがあるとそのように考えていいでしょうか。これは県も人的な支援、財政的な支援はやっているのでしょうか。県職員の採用の教職員が、こちらに担当としておられるということでしょうか。</p> |
| 櫻井 指導主事 | <p>予算の3分の2をつけていただいて、筑前町教育課で募集をかけて、このソーシャルワーカーには、昨年9月から来ていただいています。</p> |
| 田頭町長 | <p>これも一つの強力な不登校対策ではあります。</p> <p>教育的立場からすれば、一般行政、社会にさらに何を求められるのか。こういった分野が充実したら不登校解決に一步前進するのか。何か意見があれ</p> |

| | |
|-------|---|
| | <p>ば。</p> <p>グラフは右肩上がりに増えている。これは学力の問題とは何か関連性があるのでしょうか。どのように認識されているのか。不登校が多いがゆえに全体的に学力の低下に繋がる、そういうことは関連性ないのでしょうか。教育長どうでしょうか。</p> |
| 宮崎教育長 | <p>昨年度不登校だった子、中2の時に不登校だった子6名が今年中3生になって4月の全国学力調査を受けていますが、確かに点数はそこまで高くはないですが、仮にその子たちが満点を取ったとしても、学校全体としての平均正答率はそこまで上がらない。不登校だからといって学校の学力低下という風に直結はできないです。</p> |
| 田頭町長 | <p>不登校と町の学力問題とは別問題という風に捉えていいわけですね。先生、何かご意見があれば。</p> |
| 東野委員 | <p>不登校で一番私が問題だなと感じているのは、その子どもが自分が学校に行っていないということで引け目を感じる。極論、自分はもう駄目なんだ、どうしようもない子なんだと思ってしまう。そしたらもう、ずっと負のスパイラルに陥る。親御さんもだんだん「なんで行かないの?」と攻めの姿勢から「行かなくてもいい」となっていく。子どもたちが将来的に、自分で稼いで自立していく力を削がれるのは、私は不登校で一番の問題だろうと思います。</p> <p>もちろん学校では、子どもができた、わかったっていう授業作りをしていきたいと思って先生たちも頑張っていると思いますが。</p> <p>もう一つ、今、私別の立場で未来センターの仕事もさせていただいていますが、親御さんの養育能力が二極化しているというのを感じます。学力の二極化と同時に、親御さんたちの育児に対する力も非常に二極化しているなど。健康課などもいろいろ親御さんにアプローチをかけ、行政では非常に対策をやっているなどという感じはしますが、これはまだまだ由々しき問題です。すぐに解決できる問題ではないと思いますが、いろんな機関でやっていけないと思います。</p> |
| 田頭町長 | <p>やはり親の環境、家庭環境の影響も大きいと。これには経済問題も当然絡んでくるでしょう。であれば、なかなか一朝一夕で即対応ができるという話でもないけれども、社会全体の経済的豊かさとか、教育に対する関心度が家庭によって非常に差があるのではなかろうかと思います。</p> |
| 東野委員 | <p>特にコロナ渦で職を奪われたパートの方々や職を切られてしまっている方々もおり、生活保護の数も非常に多くなってきている。そういった人たちもなかなか生活が精一杯で子どもの食や睡眠に関われない、できないといった実態があるのかなと思います。</p> |

| | |
|-------------|---|
| 田頭町長 | 一つはもちろん、家庭の経済環境、価値観の問題もあると思うが、そういったものに左右されないような子どもの教育環境を作る必要は大いにある。 |
| 東野委員 | そこはやはり学校教育に大きく比重があるものだと思います。 |
| 田頭町長 | <p>例えば今給食費の無料化が全国の自治体の3割で導入された。全国的な流れとしてやっていくので、うちもやがてはという思いがあるが、財政上非常に厳しい。しかしながら、国も少し関心が高まってきたので、2分の1、3分の1補助をやがてすることになっていくだろう。その時にはもう全国的に給食費の問題は、国や行政の責任という思いがかなり強くなってくる。これは人口対策として取り組んでいる自治体も多いようだが、それはあまり好ましくはないと思っている。教育問題として捉えるものだろう。</p> <p>例えば今、義務教育を考えれば、基本的には子どもの食事の朝ご飯は家庭の責任だろうが、昼ご飯は休み以外はほぼみんな食べていると。そういった食に関する貧困度も感じるころはあるのでしょうか。まともに食事をしていないのではという子も不登校の中にはいるのでしょうか。教育にお金がかかると言うが、テキストや給食費、修学旅行費など個人払いするものの滞りはないのでしょうか。</p> <p>さらに裕福なところは塾にやる。塾にやるのはお金がかなりかかるので誰でもやれない。そういった経緯でアフタースクールを起こして、関心が低い人にはアフタースクールに行ってもらい、塾の受講料は10分の1程でしょうから、それは負担してくださいというようなやり方で進んできた。そういった意味でアフタースクールの意味合い、意義というのを感じられるのでしょうか。</p> |
| 岡松 職務代理者 | 意義はあると思います。ただみんながみんな手を挙げるわけではないようです。部活との兼ね合いもあるでしょうし。 |
| 田頭町長 | 学校が嫌いでも部活は来る、あるいはスポーツ少年団だけは来るとか。そういった子どもはいるのでしょうか。 |
| 東野委員 | 少ないですが、聞きます。 |
| 田頭町長 | <p>なら、そこに一つの達成感、充実感を求めていることは事実。ただ我々も今までの価値観では当然学校に行くべきで、自分の力を蓄えるものだ、充実感を味わうものだということを言ってきましたが、どうも最近の社会情勢からすればそればかりではない。</p> <p>例えばアスリートみたいに素晴らしい野球選手であれば、それプラス勉強でいいんじゃないかとかそういった価値観も一部生まれてきているのも事実。確かにあの人たちは、やはり世界で活躍するといったら英語が必要だということを再認識して勉強している。それが本来の姿かもしれません。</p> <p>だとすれば、町がやれることをやらなければならないということで、まず</p> |

| | |
|-------------|---|
| | <p>学校の先生方に一生懸命やってもらう。そしてより頑張ってもらいたくための条件整備にうちもかなり予算を投資していると思われる。尚且つ、価値観や経済的な問題で塾に行かない、行けない子どもたちのフォローのためには、アフタースクールという手立てが一つある。これをさらに充実することは、不登校の回避にもいくらか貢献できると考えていいでしょうか。</p> |
| 東野委員 | <p>授業がわからなくて一日6時間いるというのは、本当に子どもたちにとって苦痛なことだと思います。その中で、アフタースクールが少しでも達成感、学びの喜びを味わうというのは大きいのではないかと。</p> |
| 田頭町長 | <p>なかなか理解できない子が一日6時間座って聞くというのは大変だろう。</p> |
| 岡松 職務代理者 | <p>アフタースクールを指導してくださる先生方によると、中学校の先生方ともう少し連携をできていくとより良くなるのではないかと。</p> |
| 田頭町長 | <p>アフタースクールを立ち上げた時の考え方として、昼間の先生に迷惑をかけない、負担をかけない、だからアフタースクールの先生は全部昼間の先生以外ということスタートの一つの理念にした。連携を取らなくてはいけないとは思いますが、負担はあまりかけるべきではないだろうというところで、教育委員会のOBや先生方をお願いしてやっていると。このアフタースクールのボランティアでの限界というのは感じられないのか。私もある自治体のアフタースクールのプロセスを見てきて、ボランティアからさらに専門性の高さに移行しているなということを感じたが、その辺はどのように感じられておられるか。</p> |
| 浦山委員 | <p>アフタースクールはいい制度だとは思いますが、進め方が学校と連携していないというのは、意見として聞いたことがあります。そのあたりをもう少し接点を持っていただけるような進め方をしてもらえれば、非常に価値がある事業だと思います。</p> |
| 田頭町長 | <p>一般的な塾は学校の進捗状況に関係なく、塾の方針でやっている。しかしアフタースクールはやはり学校との連携があった方が、より効果的だし、アフタースクールらしいというような考えか。その辺は学校現場としてはどうでしょうか。</p> |
| 宮崎教育長 | <p>中間テストや期末テストと連携をしていますし、子どもが不登校の子であるとか特別支援が必要な子の情報は、これまで以上にアフタースクールの講師陣と情報交換をしております。繋ぎをもう少し増やすに越したことはないですが、逐一連携するとなると、打ち合わせの時間が莫大になってしまう。その辺の落としどころをどう見つけるかだろうと思います。連携は必要。</p> |
| 田頭町長 | <p>ただ、先ほどのデータでは、不登校の子がアフタースクールだけに行っているという子もいるかはわからないと。</p> |
| 小川 | <p>不登校の子はわかりませんが、特別支援の子がアフタースクールに参加</p> |

| | |
|------------|---|
| 指導主事 | <p>しているとは聞いています。情報共有して教材をその子のために特別に作って、サポーターの先生に気にかけて見てもらうといったことは行っていると聞いています。</p> |
| 田頭町長 | <p>アフタースクールもかなり生活指導的な支援も必要としているということ。</p> |
| 櫻井 指導主事 | <p>昨年度までは募集をかけて参加したい人はどうぞと学校にも資料を配ってもらっただけでしたが、やはりアフタースクールの良さというものを理解してもらって先生方からも声掛けをしてもらうということで、本年度からは4月に職員会議にお邪魔させていただき、先生方にアフタースクールの目的と意義をお伝えし、PTA総会にも参加させていただき、保護者の方にこういうことをしていますと説明させていただきました。</p> <p>学校+アフタースクールで力をつけてほしいという子に、学校の方から背中を押してくださいとお願いした結果、昨年度から倍近くの応募があったのと、特別支援学級で今まではアフタースクールとかに参加させられないだろうと考えていた保護者や本人も、そういうことが学べるなら学びたいと応募してきて、確かに今までとは違った配慮が必要にはなっているが、地域おこし協力隊のスタッフもつけていただいて、きちんと教材も個別に用意するとかして今までにないアフタースクールの体制ができて今年スタートできています。</p> |
| 田頭町長 | <p>学校の先生たちは、このアフタースクールについてどのような考えなのか。迷惑だとか他のことを教えてないでくれとかそういった思いはないのか。</p> |
| 櫻井 指導主事 | <p>学力調査の結果で、やはり学習の力が身につけていない子たちを、今までは漠然とこの子かなという感じだったが、今はきちんとその情報をアフタースクールの講師にも情報提供しています。学校の先生方も学校+アフタースクールで見てもらうことでありがたい、一緒にやっていくという思いに少しずつなっています。当初は、生徒指導の問題など、先生方もアフタースクールに対してよくない印象を持っていたこともあるが、今はそのようなことはないです。</p> |
| 田頭町長 | <p>将来的にアフタースクールは意義があると。このアフタースクールをより充実することは、不登校だけでなく、より効果があるという認識でいいでしょう。行政も一緒になってやる、この一つの政策として、アフタースクールはより充実させていくことは好ましいとそのような判断でよろしいだろうか。</p> <p>ならば、その次のステップにいきまして、どうやったらもっと充実できるか。一つの手法が今年から取り入れた地域おこし協力隊。かなり活躍してい</p> |

| | |
|--------------------|---|
| | <p>ると教育長から話を聞いているが、あのような他所からの力を導入して取り組むことも効果ありと見てよいか。教育に関心を持っているということで手挙げてくれた協力隊ですから、期間は短いですが、意欲的に取り組んでくれるだろうと思っている。それで経済的な補償はある程度できる。今どこでも教員不足と聞いているが、協力隊は指導しておられるのか。何をされているのか。</p> |
| <p>櫻井 指導主事</p> | <p>基本的には運営面で全体的に様子を見てもらっていますが、元々、今回来ていただいている協力隊が塾の講師経験があり、無理なく子どもたちとの関りを持っていただいています。</p> |
| <p>田頭町長</p> | <p>教員の資格持っていれば教えることができるのでしょうか。</p> |
| <p>宮崎教育長</p> | <p>アフタースクールに関しては、資格を持たなくてもいいです。</p> |
| <p>田頭町長</p> | <p>地域おこし協力隊も若い年齢の人が来る。単なる事務のお手伝いばかりではなく、そこに充実感とか達成感とか、子どもたちも同じだと思うが、ぜひ協力隊の方が味わえるような環境を作っていただきたいと同時にしっかり見てはいただきたいと思う。また、必要ならば、地域おこし協力隊の更なる増員も考えられる。</p> |
| <p>宮崎教育長</p> | <p>アフタースクールに関して、これは絶対潰してはいけない事業だと思います。持続可能であるためには、講師の先生方をどう確保するか。今年も退職された先生方、現職の県立高校の先生方だけでは人員が足りなかった。今年、私立の筑紫台高校から2名、ボランティアではなく、有償の講師陣として来てもらっている。退職された県立高校の先生だけじゃなく、いろんな方を雇っていかなくてはいけないだろうと思います。講師が持続的に確保できるかが、一番心配しているところです。</p> |
| <p>田頭町長</p> | <p>ある自治体は民間塾に丸ごと契約しているところもある。それはあまりにも受験対策オンリーになりがちだろうと思うが、ボランティアっていうのは限界がある。ボランティアもお願いはしていかないといけないと総論としては出るけども、やはり責任持って継続してやってもらうということであれば、ある程度補償していかなくちゃいけないということになると思う。</p> |
| <p>宮崎教育長</p> | <p>アフタースクールに来る子が多くなれば多くなるほど、指導者が必要になる。経費がかかる。</p> |
| <p>田頭町長</p> | <p>住民の税金を預かってどう使うのか。例えば、来年度について何が一番必要かという事で、一つは間違いなく地域おこし協力隊。これは一つ効果あると。更なる増員ということも考えられる。事務的な贅沢は許されないが、こういった何か特化した形で確保するということは、一つの案。</p> <p>それこそ5~6年前までは、学校の先生を辞めて役場にくるとは考えられなかった。私も面接したが、更に自分を高めたい、教育職という分野だけではなく、幅広くという意識でいる。俯瞰的に物事を見るということは極めて</p> |

| | |
|--------------------|---|
| | <p>大事だろう。</p> <p>アフタースクールについては更なる充実、具体案があれば、ぜひ提示・提案をしていただきたい。</p> <p>それから不登校ではないが、英語教育に力を入れている。財政的提案をさせていただいているが、その成果はでているのか。それと何か改善策、更なる拡充策はあるのか。</p> |
| <p>小川 指導主事</p> | <p>英語については資料にあります、筑前町「英語教育」グランドデザインの資料をご覧ください。</p> <p>筑前町は学力調査の結果が大変悪かったです。英語も大変悪かったです。これを受けて教育課も私自身も中学校の英語教員の一人として、悔しい思いはありました。そこで昨年度からある英語教育グランドデザインに更に強化をしようということで、昨年度まではイングリッシュワークショップ、英語のスピーチコンテスト、そして ALT 配置、英検の受験費用の補助などたくさんの方の支援をしていただいています。これだけ支援をしてもらっているものですから、やはり学校で先生たちにも授業を頑張ってもらいたいということで、本年度加えたのが、英検対策、それから「単語習得」大作戦、外国語指導力向上研修これを加えています。</p> <p>「英検対策」大作戦につきましては、過去問題、英検対策のアプリを活用して勉強会の実施、授業で少し問題を取り扱ってもらい、アフタースクールでも英検問題を活用して指導を行っていただいています。また家庭学習でも取組を行いまして、英検の実施に備える子どもたちにアプローチして既に英検対策をするということで実施・活用を始めています。</p> <p>次に1、2年生の受験が1月に控えていますので、それに向けてまた取り組みを行うように考えています。このような計画をこちらからただやっただけではなく、資料下部にあります「外国語指導力向上研修」を9月から月に1回実施するようにしています。先日第2回が終わりまして、今度第3回には次の英検対策に備えて、3年生の実施を踏まえてどうだったかということ振り返って、また次に活かすというような取組を行っています。この指導力向上研修の中にも、先生たちの意識改革も一緒にしていこうということで、どういう風に子どもたちの力をつけていこうかということ毎回テーマにして研修を行っています。その中の取組の一つに、単語習得大作戦があります。なかなか勉強についていけない、厳しい子どもたちにも力をつけるということで、じゃあ何ができるか、誰もがができること、取り組めることということでまずは単語をしっかり覚えていこうということで、町全体で統一した単語コンクールというものを提案の段階ですが計画を立てています。単語コンクールに向けてみんなで一緒に単語を覚えていこうとい</p> |

| | |
|------------|--|
| | うことで、どのように取り組むか先生たちと一緒にアイデアを出しながら進めているところです。このように今年から始めたこともありますので、これを結果に繋げていきたいと思います。 |
| 田頭町長 | うちの英検3級の取得率は、県下の中で極めて高いのか。 |
| 小川 指導主事 | 中学3年生の英検3級の受験50%取得を町では目指している。 |
| 田頭町長 | それは県レベルでは高い目標数値なのか。 |
| 小川 指導主事 | 高いと思います。 |
| 田頭町長 | そこまでの実力を有しながら、学力テストに反映しないのはなぜか。 |
| 小川 指導主事 | 目標には立てているが、まだ目標達成には至っていないのが現実。ちなみに昨年度は、英検3級取得が34.7%、4級が46.0%、5級が65.4%という結果が出ています。まだまだ届いていない。 |
| 田頭町長 | 今までは英検の受験は奨励してきたが対策は特にはしていなかったのか。 |
| 小川 指導主事 | 対策していなかったわけではないが、徹底はされていなかった。 |
| 田頭町長 | 英検の取得率が上がることで、英検の合格率が上がることで英語力が身につくという考えか。では、政策評価する上で、英語検定の受験料補助というのは効果ありといえるか？ |
| 宮崎教育長 | 経済的に関わらず、全員に機会が与えられるということは、効果があると言える。 |
| 岡部委員 | 子どもの中では、なぜ受けないといけないのかという子どもがたくさんいるらしい。だが、町が負担してできているということを理解してしなくてはいけないと話をさせていただいている。うちの子は英語には興味はある。全体で英語を頑張ろうという学校の動きはあるようだ。その一つに英検があるし、フィリピンとの交流も楽しみにしているみたいで、変わってきたという気はしている。 |
| 小川 指導主事 | 母子家庭に支援をしていただいている市町村は本当に少ない。 |
| 田頭町長 | ある方から、英検の受験料だけはお礼を言われたことがある。それで英語が好きになったということだ。これからの社会に英語は否応なく入ってくる。どうこう言ってもやはり英語力は必要になってくるので、そういった意味では頑張っても推奨していく必要がある。例えば、APUとか英語村とか、単発で1、2回行って効果が出るものなのか。 |
| 小川 指導主事 | イングリッシュワークショップについては、継続して小6から中3まで毎年行われるので、これは継続的にすることで、意識の改革には繋がっている。 |

| | |
|------------|--|
| 田頭町長 | 今の段階では意識改革。具体的に英語が堪能になるには1～2日ではそうなりえない。 |
| 小川 指導主事 | 実際の英語を使って試す場というのは、このような場を設定しないと日本の中では難しい。少ない。 |
| 田頭町長 | 片言でも英語が通じたということは自信になるということか。 |
| 小川 指導主事 | 次への意欲に繋がっていく。 |
| 田頭町長 | 英語村とか行くのは、非常にいいことだと。 |
| 宮崎教育長 | 今までの反省として、英語村に行く、APUから来る、スピーチコンテストをするというイベント事はしていたが、その前後に準備なり学校の授業との連携がないので、単発で終わっていた。それが繋がっていくことによって、英語村に行った成果を学校に帰ってきて授業でどうするか、そこが線として繋がれば今まで以上に子どもの力がついてくるだろうと思う。 |
| 田頭町長 | この間のスピーチコンテストで私はわからないなりに聞いていたのでは、夜須中と三輪中の差が大きいと感じたがそれはどう考えるか？ |
| 小川 指導主事 | 今年のコンテストは学校の授業と繋げるということで、大きく変更した部分がある。先日の指導力研修の反省で出たが、出場者の締切を設けていたが、当日までの期間が短く練習に取り組める時間がなかった。これは来年度に活かそうと思う。その中でも勝ち取った子たちは自ら自分たちで練習するという意識改革が既にできている子。だから、ある程度のレベルに達して出場させるのは先生の力がある程度必要だが、その後も、子どもたちが興味を持ってしまえば、自分でどんどん練習するようになっている。 |
| 田頭町長 | 英語はいろんな思いがあっても、ぜひ国語英語算数というのは早く覚えるのに越したことはない。今の英検の補助制度、研修制度は有効であると。スピーチコンテストを私も3回聞かせてもらったが、数年前より上達していると思った。三輪中の文化祭で英語スピーチがあったが、その時の女の子はとても上手だったという話が出たが、なぜその子は出なかったのか。 |
| 小川 指導主事 | その子はスピーチコンテストが終わってから、先生がこのままではまずいとなり練習させたと聞いています。 |
| 宮崎教育長 | それはいい刺激。優勝した子と2位の子は、ぜひうちの職員の前でも紹介させていただいて、注目されるような場面に出していきたいと思う。では、学力全般について説明をお願いしたい。 |
| 櫻井 指導主事 | 広報にも掲載させていただいていますが、令和5年度全国学力・学習状況調査、福岡県学力調査の結果の資料をご覧ください。今年度は3年に一度の英語も実施されている。調査結果の概要ですがまず本町の小学校6年生は全国・県平均を上回るということで結果が出ています。中学校3年生について |

は、全国・県と比較してかなり低い。2番の福岡県学力調査ですが、5年生、中学1年生、2年生が受験をしております。6年生は全国平均を上回ったが、5年生は県の平均に対してこのような結果になっています。中学1年生、2年生については数学で少し差があるが、このような結果になっています。

その隣のページの③番「全国学力・学習状況調査」(児童生徒質問紙調査)で主なところを取り上げているが、最初の『挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等』の質問に関してはこの赤色になっているところは、全国より良かったり、昨年度と比較して差が縮まったりということだが、『自分には、よいところがあると思いますか』というところが小学校・中学校ともに多くなっている。『将来、夢を持っていますか』に関しても多くなっています。あと『学校に行くのは楽しいですか』というところが中学校では少し気になる数字となっていますので、課題として捉えているところです。

『学習習慣、学習環境等』につきましては、中学校で計画を立てて勉強しているという目標は受けている。『学校の授業時間以外に、どれくらい勉強しているか』については、数字は全国より少ないが、計画的にやっているという中学校も聞いています。

I C Tを活用した学習状況については、本年度中学校でも意識して使うように町全部の学校で取り組んでいる施策として少し上がってきているかと思う。

『主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組』について、分かった点や分からなかった点を見直し、次につなげているかですが、数字が上がっています。このような結果と子どもたちの現在の状況を受けまして、二つ目の資料になります。

これは、今年度最初に教育課で作って家庭等に配っていただいたリーフレットの学力向上推進プランを拡大しているものになります。黄色の部分で4月当初から記載していたもので、この結果を受けて強化していきましょうというところです。そして赤文字で書いているものは、この調査結果を受けて、新たにそこは意識して取り組んでいきましょうと説明したものになります。これについて少し説明させていただきます。

まず資料上部の「学校の学力向上の取組」ですが、やはり学力調査の結果を受けて授業をきちんとやっというのを全学校で確認しています。その中でもI C Tを効果的に活用した授業づくり、あと授業チェックリストというものが県で作成してあり、自分たちで客観的に自分の受験や担任の先生の授業を評価するものがあるので、なんとなく良かったとか、できていないではなく、具体的にどこがよかった、悪かったのかきちんと評価していこうとしている。

あと、「学びの足跡を自覚する」振り返りというところで、学習の伸びというところで、きちんと今日何が分かって何が分からなかったか、どうやったから分かったのかというのを子どもたちに意識させてその積み上げをしていきたいと思いますというのを強化しています。更に書く力がなかなか身につけていないというのがありましたので、相手意識、目的意識を明確に持って書くということを継続していくと示しています。

あと一番下の方の算数・数学科の各学年の系統性を意識した授業づくりとして、特に算数に関してはどうしても小学校での理解できていなかったことが後々まで響いていきますので、その時その時の力をきちんと身につけて次の学年に、次の単元に繋げていくよう子どもたちを育てていこうと強化していこうとしています。

その際に、やはり中学校では高校入試という問題があるので、受験対策も別にやるのではなく授業の中で類似問題等も取り入れながら日々の授業の中で、受験にも対応する力をつけていこうとしています。それを支える学力の基盤づくりの中でA B C Dの四つの層に学力を分けたときに、CとDに属する子どもたちを何となくではなくて、この子がそうなんだときちんと把握した上で授業にあたりたり支援にあたりたりということを徹底しようということで、名簿作成を全学校行っています。関係する職員にこの子たちがこういう状況でいま授業中に困っていないかしっかり見てもらうよう取り組んでいる。またその上にある「家庭と関係機関との連携」のところでは、本町でA Iドリルの導入をしていただきましたので、そのA Iドリルの良さ、その子に応じた問題の選定や繰り返しも含めて家庭でも自分で学習ができる、そしてそれを習慣化できることを目指している。放課後学習の実施のところで、先ほど話にもなりました、アフタースクールの先生方にもC・D層で来ている子の中でも特にこの子たちは学校で困っているので、いつも以上に声を掛けてほしいとか見ていただきたいとか共有を行っているところです。

右側の「教員の意識・指導力の向上」では、やはり各担任とかに任せるだけではなくて、学校長のマネジメントの強化による学校全体で学力向上の取組を行っていただくということで、校長会議でお願いしています。その際に、ただ頑張っていますではなく、データを基にしてこういったところは伸びてきている、こういったところがまだまだ課題だということをもみんなで共有しながら進めてくださいということでお願いしています。

一番下の「日常的なO J Tの推進」のところは、各学校管理職の先生が毎日授業を見ていただいてアドバイスしていただいています。若年層にも分かりやすいようチェックリストを活用していただくようお願いしています。

最後ですが、それらを支える私たち教育委員会の支援として、「研修会」。

| | |
|------------|---|
| | <p>今年町の研修を見直しましたが、その中で県内の教育と町に還元するという ことで、先生方各学校から何人か出していただいて、各学校、町全体に還元 していただくため取り組んでいきます。</p> <p>またICTの活用。今年度、大学教授に1年間各学校2回ずつ指導に入って いただいて、ICT活用の充実を図っております。これについては各学校成 果がでておりますので、今後も続けてまいります。英語に関しては先ほど話 がありましたので真ん中のところになります、「マネジメントの強化」という ことで、学校の取組の確実な実施に向けた指導・助言ということで、私と小 川指導主事、そして井手、3名配置していただいているので、私たちがきち んと学校に入って、できるだけ授業力、先生たちの悩みに寄り添って、力をつ けていくような支援ができればと考えている。</p> |
| 田頭町長 | <p>令和5年度の学習力調査、この中で、学習習慣・学習環境で授業時間以外 で勉強している時間にかかなり差があるようだ。全国的にここまでやっている のか。その原因は何か？その分、うちは部活が盛んということが一因か。</p> |
| 櫻井 指導主事 | <p>学校の方で検討しているが、家庭の方でする課題の出し方を今までは一律 に出していたものを、できる子はもっとどんどんしていく、それもAIドリ ルを活用して、時間よりも質と考えながら各学校取り組んでいる。</p> |
| 田頭町長 | <p>数より質が大事だと思うが、やっぱり一定時間も一つのパラメータ。全国、 家庭環境がそんなに違うとは考えにくい、うちは学校特徴が何かあるの か。例えば、その分部活に熱心とか。よそはその部分も勉強にあてている のが数字をみて考えられるのではないか。</p> |
| 櫻井 指導主事 | <p>全部調査したわけじゃないけど、やはり都市部の学習時間には塾等も含ま れるので、単純比較するには難しい。</p> |
| 田頭町長 | <p>うちの全国的な課題は、やはり家庭の学習時間、塾も含めて少ない。都市 部は非常に教育熱心な人が多い。私は秋田県に行ったが、秋田県も盛んだっ た。田舎だからこそ頑張るんだという地域もある。よそがここまでしている なら学力比較すればやはり高くなると思う。その辺はやっぱり率直に認めて 対策を練るといふか、その分だけ体育で頑張っているというのもいいが、た だやはり何かそこに一つの原因があることは考えられる。それともう一つは 具体的に、三輪小学校が格段に1年で伸びた原因は何か。それに学ぶとこは あるだろう。</p> |
| 櫻井 指導主事 | <p>三輪小学校は今年度、5年生のときには結果が悪かったということを経験側 も真摯に受け止めて、5年生の担任だけに任せるのではなく、学校全体で こういった子どもたちが5年生になったときに力をつけるためには、どんな ことが必要かを職員が検討して決めたことを徹底してやろうということで、 継続して1年間やってきたということがこの結果に繋がったという報告を受</p> |

| | |
|-------------|---|
| | <p>けている。英語と同じように、学力向上担当者も月に1回情報を共有している。今回、三輪小学校で結果が出たことを参考に、ほかの学校も、いま自分たちの学校でやるべきことは何かということを職員で共有して取り組み始めたという報告を受けた。継続していくところを私達も見守っていきたいと思う。</p> |
| <p>田頭町長</p> | <p>立派な計画があっても誰が実行、行動を起こすのかが大事。トップリーダーとしての意気込みというか、在り様が非常に大事だろうと思う。先日、三輪小学校から副町長に、ぜひわが校の姿を見てほしいと声をかけられたそうだが、私はここに意欲を感じた。それと同時にビジョンは立派に作るけども、やっぱり各学校がしっかり認識するとか、その気にならないと、伝わらない。その中にはやっぱりトップリーダー、校長のリーダーシップというのは大きいだろう。私自身も問われていることだが、やはりトップの意欲とか雰囲気、言葉というのは重たい。そうなってもらえれば、各学校もまたさらに頑張る様子が出てくるだろう。それは率直に現場からも言ってもらった方がいい。言いにくいところがあれば、私どもが言っていく。</p> <p>リーダーシップの問題で、リーダーシップをどうしたら取れるのか。これは聞いた話だが、大刀洗あたりは町長、副町長と教育委員の意見交換、教職員との意見交換をしているらしい。住民も学校には期待している。私どもは町全体を見る立場にあるので、住民が学校に頑張ってもらいたいと思っていることを伝える機会が欲しいなと思う。私は、ある時、三並小学校で先生と話したら、三並小学校は小さく、学力1位だったのをまぐれと言われたくない。だから毎年頑張るというプライドがあった。そして今度は三輪小学校。町内ではマンモス校だが、そういった成果があり、学校の大小じゃなく、やはり人だなと。私どもで役に立てることがあったら、私は思いだけは伝えることはできる。学校側は学校別に公表しないが、我々としては知っておきたい。今日の場もぜひそういったリーダーシップの問題もあると確認しておきたい。</p> <p>そういったことで我々が町と教育委員会でやっている政策についての支援は、従来通り継続することが望ましい。ただスクラップアンドビルドと思っている。無限に財源があるわけではないので、無駄があれば削っていく。私は教育が大事ということで優先的に財源配分しているが、このステージが終わったら次、と進んでほしい。</p> <p>不登校と学力向上をしっかりやっていくとあるが、不登校についてはすべての分野に行き届くことはできないが、せめてアフタースクールを充実させることが一助にはなると。不登校については、教員の配置とか、更なる増員の要望もある。</p> |

| | |
|-------|---|
| 宮崎教育長 | <p>改めて町長にお願いがあるが、いろいろな理由の子たちがいて、登校の状況も全く来ない子から、保健室、別室登校に来る子、うちの支援センターに来る子、いろいろな状態の子がいる。いま一番足りないのが、保健室なり、学校には来るけども教室には入られない子たちにどうやって学習の指導をするかというところのマンパワーが少ない。養護の先生は保健の業務がある。手が空いている先生がどれだけいるかという、なかなか少ない。家庭で経済的またいろいろな理由で来られない子には、未来センターをおいてもらい福祉的な面からも支援してもらっている。支援センター、アフタースクールなど、いろいろな場があるが、別室登校で子どもたちの学習、学びの保障をする人が少ないと思っている。</p> |
| 田頭町長 | <p>かなりの教員不足となるが、他の自治体でもそこまでしているのか。国の責任も追及していきたいと思う。</p> |
| 宮崎教育長 | <p>春日市は、中学校に1人。退職した校長先生を校内に不登校の教室として1つ設けている。全国的に国も、校内で適応指導教室、不登校の子たちの指導する教室を置きましょうという掛け声はするが、人的な負担までは全国にはできない状態。</p> |
| 田頭町長 | <p>国も給食費が必要だなど言っているが、いざとなると財源確保が許さない状況。文科省あたりでかなりクローズアップされた課題であるが厳しい。社会的な問題として、教育というのは幅広い問題で、家庭教育、地域教育などいろいろあるが、なかなか親の働く姿を見る機会が少ない。私としては、親が働く、社会のためになっている姿を見せるのが一番いいのが、ゴミ収集ではないかと思う。あの場は人が集まるコミュニティの場でもある。あの後ろ姿を見せるというのは、極めて大事なのではないか。あるいは、町としてはもっともっと分別を進めていって、コストダウンへゴミを少なくしていくように進めていく。そういったものを、例えば学校でも課外的に捉えていただき、我が家のゴミはどういった流れで…というような捉え方をしてほしい。あるとき、私は三輪小学校のサン・ポート問題の発表を聞いた。ここまで勉強するのかとすごいと思った。役場の職員より、私よりも詳しかった。ここまでしてくれれば、この地域はかなり変わると思った。勉強時間を削ってこればかりともいえないが、日常的に見えるものを、少し勉強して関心を持って見てもらう。そういったのをある程度協力し合いながらやれば、別にイベントのお祭りばかりやるのではなく、暮らしの中のそういった姿、あれは親も一生懸命しているのでいい姿ですよ。誰もが平等に仕事しているから。ああいったのをもう少しお互いの連携の中でやっていければ、うちの方もいいし、子どもから見られて発表されたら地域は頑張る。今度もクロダマルしてもらおうということで、とても関係者が喜んでいる。そういったこともお</p> |

互い連携を取ればもっとやれることの一つじゃないかと思う。

それと、学校給食でも、今はアレルギーの子が多いようで、給食も大変だろう。町としての考え方でいけば、自校方式で非常に子どもたちに近い形で提供している。だからこそ、もっと食の魅力をアピールしていきたい。ある人から、食洗機がなくて非常に困っていると言われた。すぐに対策するわけではないが、確かに他の施設もみな食洗機を導入しているので、これは町でできる一つの課題かと思う。直営ならわかりやすいが、委託している分、なかなかそこまで我々も行き届かない。そして今から広島のように受託業者が引くようなケースが多くなるようだ。同じ働く人として、考えていく必要がある。またこれだけ物価が上がれば、見直しの要望が出るかもしれない。そこまで考えて町の財政を考えないといけないご時世である。

それと、今盛んに国が物価高の対策で何らかの手を打てと言われているが、同時に市町村でも考えて対策を出せということがやってくる。その中で教育委員会から見た何か対策があれば提案していただきたい。以前我々が考えた一つに米配りがあり、今年も12月頃に行く。これは前の予算でやるが、今度新たな予算がきたらにすぐに取り掛からなくてはいけないため、その対策も練らなくてはいけない。あくまでテーマは物価高、生活苦。一律的なものは国がやるが、更に教育分野でこんなことをしたらいいというものがあるか。私が思いつくのが給食費の助成が確実に増えている。しかしそれが単発で終わるため、財力があるところは継続できるが、そこが問題。うちもコロナの時には半額補助などをした。そこが一つの意見かと。あとは、いちご配りなどもしたが、金額じゃなく、喜ばれる。子どもたちにも町の特産品を分かってもらえるとして町としても有難い。職員もありがたいと言われる数少ない機会だった。それと、PTA活動が疎かになっていたが、その分PTA役員の方が非常に協力的。一つの活動になるという意見もあった。いいところはしていきたいと思うが更になにかあれば。

今言ったように不登校対策についてはなかなか難しいけども、今のアフタースクールなどを充実させていく、そこに教員対策が大事。それと、学力向上についてはやっぱりリーダーシップが大事。こういった政策を一つ一つ徹底していくことが大事ということは私どもの認識として共有させていただく。ぜひ成果が出るようにお互い頑張っていきたいと思う。その他、何かこの機会に言うておくことがあれば聞かせてほしい。

学校にいろいろなクレームが多いということは実感している。複雑なものはこちらまで届くが、一部だと思うので、大変なことは察する。

もう一点だけ、部活の問題。部活を一律地域開放する、移管すると国がしきりに言っているが、教職員も部活を手放したくないという思いもあるので

| | |
|-------|---|
| | は。 |
| 宮崎教育長 | 割合から言ったら、したくない教員の方が多い。 |
| 東野委員 | いまいろんな働き方がある、それこそ若い子はほとんど転職サイトを登録しているが、残業がないなど、きれいなことだけが書いてある。そういう上辺だけみると、教員という職種は過酷。特に学校が荒れていた時代を経験している先生たち、それこそ廊下をバイクが通るような時代を経験した先生たちは、やっぱり部活で生徒指導をしてきたっていう自負がある。そこも教員も世代交代しているので、特に部活がしたくて教員になったという人は少ないのではないか。 |
| 田頭町長 | 確かに変わってきている。転職を軽くやる時代になった。消防団も無理して入れているが、本音ではかなり厳しいものがある。そのことによって志願率が下がってきているのではないか。そして、地域に入らなくてはいけないと絶えず言われているが、その地域が嫌という職員もいる。そこを上手くやらないと管理できない。 |
| 東野委員 | 部活にしても今年度から、いつお休み、週何回までと夜須中、三輪中共通してされている。私は弓道の方に少し関わらせていただいているが、保護者も決まっていることだからと割と受け入れている。子どもたちはいろんな思いがあるだろうが、町や教育委員会が主となって変えていくというのは現場としては有難いのではないか。やはり現場からは言えない。 |
| 田頭町長 | 現場からは言えないだろう。そういったのは、やはりトップダウン的な方がいい。 |
| 東野委員 | 一つは、数年前に夕方6時から留守電にする。あれもこの委員会からおろしてもらったので、保護者から『その後何かあったらどうするんですか。』と少し質問はあったが、本当に何もなくて浸透してしまっているの、変えられるところはトップダウンの意義も大きい。有難い。 |
| 田頭町長 | 水曜日はノー残業デーとしたら、それなりにまわっていく。どうしても会議がある者は致し方ないとしても、常習化している残業はなくなっていく。それでまわっていけるとなったので、そこはトップダウン的なことも必要。私はいい制度だなと思ったのは、多目的運動公園が真ん中にあるので、夜須中三輪中と一緒にやっている。先生の指導方針はそれぞれあるだろうが、日替わりで教員がやっていける。そしてまた、子どもたちのためにも休みは作らなければいけない。部活が非常に盛んな町といわれるが、その中で休んでいく仕組みや価値観を作らないといけない。 |
| 宮崎教育長 | 私たちの中でも、部活をしっかりしたい子もいるし、ゆっくりしたい子もいる。昔はそういう子も含めて朝から晩までしていたが、今は休みも増えてきて緩くていい子も救われている。 |

| | |
|------------|--|
| 田頭町長 | うちの学校については、いきなり部活を無くすのは子どもたちが可哀そう。今、部活は全員？希望者だけ？どれくらいの割合で入っているのか？ |
| 宮崎教育長 | 6割～7割くらい。 |
| 田頭町長 | 確かに今、吹奏楽とか増えた。町などから出場をいろいろお願いするのは、プラスか？マイナスか？ |
| 宮崎教育長 | 喜んでいきますよ。やはり見てもらいたいですから。 |
| 田頭町長 | 発表の場でもある。ほかに何かあれば。 |
| 浦山委員 | 働き方改革の一環で、先生方への充て職は見直す時期なのでは？先生方も管理職を含めて大変だと思う。行政職では水曜日はノー残業デーというのが浸透してきて、なんとなく一般化しているように思う。 |
| 田頭町長 | うちは強く言っていないが、県などは徹底しているのでは。銀行なども以前のように深夜までしているというのは、聞かない。 |
| 浦山委員 | やはり今少子化で、世代によってだいぶ考え方が変わってきているので、そこを見極めながらいい方向に改革をしていけば、うまく世の中がまわるのではないか。 |
| 岡部委員 | 部活が短くなって最初は「なんで？」と言われていたが、定着してきた。 |
| 田頭町長 | やはりスポーツの考え方も変わってくるのでは。今は、見ることも一つのスポーツだという風になりに意識付けが変わってきた。主事の方、何か意見があれば。 |
| 小川 指導主事 | 英語の教員として、もしかしたらこの先、気にしなくてはいけないのではと思うのが、外国籍の子が少しずつ増えてきている。やはり人的支援というのが話にも出てきたが、今年途中から転入してきた子に、担任が付きっきりというわけにはいかないの、何も日本語がわからない子がポツンとなる。最初は頑張る様子も見られたが、最近見たときには表情が暗くなっているように感じた。なかなか先生たちも一生懸命にやってくれているが、ついてくれる先生がいないのは可哀そうだなと。町としてもできるだけのことはしているが、やはり日本語としてちゃんと教える先生がいてくれたり、横について支援してくれる先生がいるのかなと。 |
| 田頭町長 | うちの町は外国人は少ない方だが、これは間違いなく増えてくる。企業誘致もしているが英語圏じゃないこともある。そこで出てきているのが夜間中学。うちもやがては人口が若干増えているし、企業も誘致しようとしているので、そういった子どもたちも大人も増えてくる。小さい3万ぐらいの町ですべてをするのは難しいが、今後日本語を教える夜間中学がアフタースクールみたいに必要になってくる。そういう時代がそう遠くない。ただうちだけでできるのか、朝倉や筑紫野と一緒にやるのか。そういった面でもと連携しなくちゃいけない。大きな工場があるところは、労働力として外国人が入 |

| | |
|-------------|---|
| | <p>ってきて、やがて定住となっていく。その過程が非常に難しい問題。いろいろな差別問題も起こっていく。今後の課題として重要である。</p> <p>私ども素朴な願いとしては学力テスト上がったと言いたい。それは本当に住民の方が望んでいることであり、私の思いでもある。もちろん勉強だけじゃないと十分わかるが、やっぱり必須だろう。学習時間が少ないっていうのが一つ大きな何か課題だなと感じる。</p> |
| 岡松 職務代理者 | <p>子どもたちがいち早く夢を持つこと。将来のために今すべきことは何かなど、そういうことを早い段階から実感することで、勉強の取組方が変わってくる。それこそ、英語に対する取組も今や必須ですから、当然自ずと英語は必須だと気付くんでしょうけど、早く夢を持ってくれば。</p> |
| 田頭町長 | <p>スポーツ選手も海外に行ってから必死に英語を勉強している。今アスリートはみんな優勝した子は流暢な英語で答えているが、あれはとても勉強している。</p> <p>今日もストレートな対策は出ませんでしたけれども、やはり意見を出すことには意義がある。私も一個人ではあるが、町長という立場で発言には責任を持ちたいと思う。今後ともよろしく申し上げます。</p> |
| 久野 | <p>これを持ちまして、本日の教育会議は閉会いたします。本日はありがとうございました。</p> |